乙訓平和委員会ニュース

発行年日２０２０年７月５日　№３６１発行・乙訓平和委員会　編集責任者・米重節男
電話・ＦＡＸ　０７５－９３２－３５４６　ＭＡＩＬ　heiwaotokuni@gmail.com

原水禁世界大会ＮＹの分科会、オンライン青年集会に参加した

４月の原水禁世界大会ニューヨーク派遣団になっていた坂本響さんから、オンラインで開かれた青年集会に参加した報告が寄せられましたので、紹介します。

原水爆禁止世界大会inNYに、参加する予定でした坂本響です。参加支援カンパをたくさん寄せていただきありがとうございました。残念ながら新型コロナウィルス流行拡大のため現地に行くことはできなくなってしまいました。ただ、分科会で行われる予定だった青年集会にオンラインで参加したのでその報告をしたいと思います。

青年集会は５月２日に行われ、核兵器の問題や気候問題など様々な視点から議論されました。5，６人のスピーカーの方たちがおり、それぞれ国や立場は違い、医学生の方や高校生、環境活動家の方など様々でした。最初に集会はそれぞれスピーカーの方たちが、１人ずつ話していく形で始まりました。その中から印象に残っていることを報告していきます。

まずびっくりしたのが、前述したとおり同世代の高校生の方がスピーカーとして発言されたことです。話を聞いていると、その方も昨年開催された長崎での原水爆禁止世界大会がきっかけで、行動を始めたらしく、僕と同じきっかけでさらに驚きました。その方は東京で折り鶴プロジェクトという、同世代に「知る」きっかけを作る行動をされました。すごい！

また核廃棄物の処理の仕事で被爆された方は、コロナウィルスに対する免疫が弱くなると報告され、核兵器は存在するだけで被害をもたらすのだと再認識しました。

それぞれ話された後は様々な質問が出されました。印象に残った質問が２つほどありました。

１つ目が原発に対しての意見と、クリーンエネルギーに転換していくにはどうすればいいかを尋ねた質問です。この質問の返答で、意外に思ったのが風力発電はそこまでクリーンではなく、自然保護が進んだコスタリカでは、水力発電が５０％という事実です。ただどの発電もデメリットはあるようで、消費電力を減らすのが先決だそうです。

２つ目が学生たちにどう核問題を伝えるかという質問です。何人か返答されました。問題を日常につなげて話していく、考えを押し付けずオープンに伝える、自分自身が楽しめる活動で伝えること、といった発言がされました。特に自分自身が楽しめる活動で伝えることは重要だと思いました。

この集会に参加して思いましたが平和の捉え方が世界的に広がっていると感じました。というのも様々な活動とどう合流していくか議論がされたり、ジェンダーの視点から核問題を考えた発言がされたりしたからです。今、新型コロナウィルスが蔓延するこの世の中を見ていると、命の軽視、人権の問題が浮き彫りになってきていると思います。僕の中で平和は命と人権を守るものです。この時期だからこそ命と人権の大切さがよくわかります。なので様々な活動と連帯しながら平和を広めていきたいです。

（オンライン青年集会の発言者･スタッフ　原水協通信から転載）

（2面に別記事）

来年度の中学校教科書候補本の展示会に行ってみた
首相こそ教科書の読みなおしが必要だと実感！

乙訓教育局で７月１日まで、来年度に中学校で使う教科書の候補本が展示一般公開されました。自由に閲覧できるので、行って見てきました。

会場には中学校の教科ごとに、数社の本が候補として出されていました。出版は全教科の本を作っているのかと思っていましたが、会社によって得意分野があるのか、扱っていない教科もあるようです。

しっかり読み込み、各社の比較をすることはできませんでしたが、一通り全教科分を見てみました。全体に感じたのは、今の教科書はカラフル・見てわかる構成・写真や図を豊富・関連した事項や背景も載せてという作りです。Ａ４版を基本に、社会科では地図・地理・歴史・公民と分冊になっているなど、理解しやすいなあという印象でした。私が中学生だった１９６０年代前半の頃とは、全然違う形になっています。半世紀以上経っていますから、社会構造や人々の生活様式、コンピューターなど技術進歩、新たな機器類の普及など、大きく変わっています。教科書に取り入れられる一方で、昔は載っていたことが、社会・生活の変化でなくなったのもあります。

技術家庭では消費者教育があり、私の時代にこのような授業を受けていれば、社会に出てから随分と助かったのにと、思うものがありました。

地図帳は、地図の上に歴史関係事項を記載してある地図帳や、世界と日本を地図で関連づけ見てわかる図にしてあるとか、単なる地図帳ではなく教科書地図として、会社ごとに工夫があるなと感じました。

数学は、計算式や数式、幾何図形などの羅列でなく、思考を助ける内容になっていて、これはわかりやすいなあと思うものがありました。確率や統計など、昔は中学校では学んだ覚えがないなあと思う、内容もありました。

国語では、「読・書・話・聞」という基本的なことに加え、人とのコミュニケーションの手法、会議の運営、紙面媒体や電波・インターネットなどSNS、マスコミや多角的な情報への対応など、現代社会で求められる力を培う項目などもありました。
また、原爆や平和について考えるための作品が、載せてあります。東京書籍は１年、２年、３年と、それぞれに、詩や文を載せてありました。他にも光村図書は３年に詩を掲載しています。他にもナチスなど外国の話を載せているのもありました。原爆や戦争、平和については、社会科分野での扱いが問題にされる場合がありますが、文学作品からも学ぶのだと、知りました。

道徳の教科書が、複数の出版社から出されています。これは私の時代には無かった教科？ですが、日常生活での人間関係や、社会人として必要な生活ルールなどの基本、歴史上の人々や最近のスポーツ選手など、人々の多様な生き方や人生観なども取り上げられています。オリンピック選手の話は、中学生の間でも話題にのぼるであろう人で、身近に考えるための工夫でしょうが、悪いことをした人も取り上げるべきでは と感じました。

今の中学生は、難しいことを勉強するのだと、実感です。義務教育終了後、社会に出ることに備えて、必要なことを身につける意味では、当然でしょう。これら教科書の内容をしっかりと身につければ、本当に「民度の高い」国民が育つでしょう。そうすれば、日本はもう少し違う国になるのではと感じました。人生の半分頃に再度、中学校教科書を全国民が勉強する機会が、必要ではないかと感じました。少なくとも**安倍首相や大臣は、中学の教科書で試験する必要があります。**ウソは言い放題、社会常識も歴史事実も知らないなど、中学校では教えていないことばかり。何よりも「**道徳**」に欠けている。それを身につけろと思うのは、私だけでしょうか。

（文責：米重節男）